

# 南島原市ニュース

平成29年1月5日

報道関係各位

## “社会を明るくする運動”作文コンテスト 市内初 松本くんが全国表彰を受賞

”社会を明るくする運動”とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生に理解を深め、それぞれの立場で犯罪や非行のない社会を築こうとする全国的な運動です。

本運動の一環として行われる「作文コンテスト」は、次代を担う小・中学生の皆さんに、犯罪や非行のない地域社会づくりや犯罪・非行について感じたことを書くことを通じて、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的として行われています。

この度、第66回”社会を明るくする運動”作文コンテストにおいて、松本康祐さん（有家小6年）が全国表彰を受賞しましたので、下記の日程で賞状伝達式を行います。

### 記

- 日時 1月11日(水)午後1時30分
- 場所 有家小学校
- 部門 日本更生保護女性連盟会長賞（小学生の部）
- 受賞者 松本康祐さん（有家小学校6年）  
※詳細は別添参照。
- 出席者 長崎保護観察所所長  
長崎保護司会連合会副会長（島原地区保護司会会長）  
島原地区保護司会南島原分区長  
島原地区保護司会南島原副分区長  
有家小学校関係者  
市役所関係者

担当部署	市民サービス課	担当者	末続 修子
直通	0957-73-6647	E mail	jinken@city.minamishimabara.lg.jp
詳しくは 	検索ワード		
担当者 連絡先			

抜粋

# 報道発表資料

法務省  
Ministry of Justice

平成28年12月16日  
法務省

第66回“社会を明るくする運動”  
～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～  
作文コンテスト入賞作品の決定について

第66回“社会を明るくする運動”作文コンテストについて、法務大臣賞（最優秀賞）はじめ、入賞作品32点が決定しました。受賞者、作品名、表彰等については以下のとおりです。

なお、最優秀賞である法務大臣賞の表彰式を平成28年12月27日（火）に開催します。

### 1 “社会を明るくする運動”とは

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。昭和26年に始まり、本年で66回目を迎えました。

### 2 “社会を明るくする運動”作文コンテストについて

本コンテストは、次代を担う小・中学生の皆さんに、日常の家庭生活、学校生活等の中で体験したことを基に、犯罪や非行に関して考えたことや感じたことをいきいきと作文に書いてもらうことを通して、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

平成5年から始まり、本年で24回目となります。年々応募数が伸びており、本年は全国から329,994点（小学生139,647点 中学生190,347点）の応募がありました。

### 3 入賞作品について（作品推薦地区、受賞者、作品名）

#### （1）最優秀賞

法務大臣賞  
（小学生の部）

長崎 柴田 薫那子 大切な魔法の言葉

（中学生の部）

愛知 金澤 寿晴 笑顔で挨拶まずはそこから

#### （2）優秀賞

全国連合小学校長会会長賞

岩手 阿部 朋哉 ぼくの町の「見守り隊」

福島 松本 真奈 言葉の力

愛媛 本多 重臣羽 私たちにできること

全日本中学校長会会長賞

札幌 小西 海翔 地域の優しさにふれて

群馬 土橋 奈穂 地域と共に

愛媛 岡本 陸 非行や犯罪から目を背けないために

全国保護司連盟理事長賞

（小学生の部）

福井 澤村 菜摘 温かい支えの中で

和歌山 落合 結菜 小さな心がけ大きな力

香川 中川 裕貴 大切な人とのつながり

（中学生の部）

宮城 武田 隼 一つの行動で

茨城 本川 かなほ 周りの環境

岐阜 杉山 愛葵 支え合って生きる

日本更生保護女性連盟会長賞

（小学生の部）

神奈川 由川 すみれ 私にできること

長野 粟津原 楓 私の支えになってくれる人

長崎 松本 康佑 「気づく、考える、行動する」

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催  
第66回“社会を明るくする運動”作文コンテスト  
～日本更生保護女性連盟会長賞受賞作品～

## 気づく、考える、行動する

南島原市立有家小学校 6年  
松本 康佑

### 「気づく、考える、行動する」

これは、担任の先生がぼくたちに対してよく言われる言葉だ。六年生は、言われて動くのではなく、まずはまわりを見て友だちの気持ちやまわりの状況に「気づく」。次に、自分たちは何をどうすればいいかを「考える」。そして、善いことだ、するべきだと思ったら自分から「行動する」。このことをいつも言われている。

学校では、友だちが困っていたら助けるようにしているし、ぼくは学校の運営委員なのでみんなの手本になることは率先して取り組むように心がけているつもりだ。しかし、夏休みのキャンプの時に、先生から、「まわりの人や手伝ってくださっている大人の人に迷惑をかけないように、考えて行動すること。」

という話を聞いて、ハッとした。先生の言われていることができていないと感じたことがあったからだ。

今年の夏休み、六年生のキャンプは学校から少しはなれたキャンプ場であり、クラスみんなで路線バスに乗ってキャンプ場まで移動した。

最初は貸し切りバスのような感じで、バスの乗客はぼくたちだけだった。バスの中で、楽しさのあまりみんな大きな声でさわぎ出したのである。恥ずかしいことにぼくも大きな声で友だちと楽しく話していた。

そこに、一人の高校生がバスに乗ってきた。路線バスなので一般のお客さんも乗ってくる。その高校生は、乗ってきたしゅん間、バスの中を見て少しいやそうな顔をしていたことにぼくは気づいた。なぜなら、バスの中はぼくたちが占領して座る席もなく、おまけにさわがしい。こんなバ

スには誰も乗りたくないと思うはず。

バスの中がさわがしくて、他人に迷惑をかけていることにぼくは気づいた。注意した方がいいかなあと考えたが、その場の雰囲気にもまれてみんなに静かにするように注意するという行動ができなかった。「気づく、考える、行動する」の「行動」まではいけなかったのである。自分の意志の弱さを感じた。

このように「気づく、考える、行動する」ことは、学校生活のこと、六年生のことだけでなく、普段の生活においても大切なことだと思う。

例えば、この夏休みもぼくらと同じ十代の人の事件がいくつかテレビや新聞で報道されている。他県において中学生を含むグループが友だちを殺害してしまった事件や、いじめが原因で自殺してしまった中学生のことも新聞で目にした。

この二つの事件も、だれかまわりの人が様子がおかしい、やってることはおかしいということに気づいていたのではないだろうか。

もしもそれに気づいていても、どう考えたのか、行動に移せなかったのか、それはわからない。しかし、大切な問題である。だれかが勇気を出して悪いことに「悪い」と言ったり「やめる」と注意したり行動に移すことができれば、このような犯罪や自殺は起こらなかったのではないだろうか。

今年のキャンプはとても楽しかったが、ぼくは今、バスの中のできごとを少し後悔している。気づいて、考えるところまではぼくにもできる。しかし、行動することまではできていない。それには、ほんの少しの勇気も必要である。小さなことではあるが、改めて「気づく、考える、そして行動する」ことは、人として大切なことであることを実感した。

これからも、まわりの方の気持ちや状況にまずは「気づく」、そしてどうしたらよいか「考える」、さらに勇気を出して「行動する」ことができる人間をめざしてがんばっていききたい。ぼくだけでなく、すべての人がこのようにできれば、もっともっと明るい社会になると、ぼくは思う。